

原子力リスク研究センター (NRRC) 第4回 技術会議 議事概要

1. 日 時：2014年11月28日(金) 10:00～12:30

2. 場 所：KDDI 大手町ビル会議室

3. 出席者：(順不同、敬称略)

主査：横尾 (NRRC)

委員：榎 (北海道電力)、滝沢 (東北電力、増子代理)、川村 (東京電力)、増田・服部 (中部電力)、福村 (北陸電力、高橋代理)、森中・鈴木 (関西電力)、岩崎 (中国電力)、山田 (四国電力)、河辺 (九州電力、岡野代理)、石坂 (日本原電)、大柿 (日本原燃)、静間 (電源開発)、飯倉 (東芝)、今野 (日立 GE)、佐治 (三菱重工)、倉田 (原安進)、示野・座間・酒井・植田・江口 (金谷代理) (NRRC)

NRRC 幹部 (オブザーバー参加)：横山・尾本

4. 議事概要：

(1) 技術諮問委員会(TAC)の開催結果及び、今後の予定について

NRRC より、第1回 TAC の議事概要及び TAC からの報告書3通の内容について報告がなされた。また、その後、NRRC スタッフとアポストラキス所長、TAC アフザリ委員による TAC の報告書に対する回答と第2回 TAC での説明内容に関する打合せ結果についても報告がなされた。

(2) PRA 向上プロジェクト体制の強化について

NRRC より、TAC からの提言に従い実用可能な最新の (state-of-practice) 手法・モデルや最先端の (state-of-art) 手法・モデルを開発し、PRA を向上させていくためのパイロット・プラントプロジェクトを実施するべく、産業界全体で組織の強化が必要であるとの提案がなされた。産業界と NRRC が、PRA 活用スタートアップチームを設立し、組織強化策の立案と PRA パイロット・プラントプロジェクトの短期および将来の計画を立案することについて承認された。

(委員からの主な意見)

この議論を進めていく上では、目的志向的にやっていくことが重要であり、最終的には各社がリスクマネジメントと安全性を向上させるために、良い PRA を使うことができるようになるということが重要。そのために、良い PRA 手法・モデルを導入し開発するための適切な順序と時期と、その PRA を意思決定にどのように生かしていくのかということが明確になっていて、それを共有できているということが求められる。我々は議論を行い、将来のビジョンを発展させていく必要がある。このビジョンを反映させることで、NRRC の研究開発計画は、より包括的で適切なものとなる。

(3) 次年度研究計画について

NRRC より、次年度研究計画・予算案についての説明がなされ承認された。

(4) PRA に関する国際動向について

NRRC より、11 月にオタワで開催されたマルチユニット PRA に関する国際会議への出席結果について説明がなされた。

(5) NRRC の情報発信実績・予定について

NRRC より、最近の情報発信実績および予定について説明がなされた。

(6) 来年の活動予定について

NRRC より、来年の活動予定について説明がなされた。

以 上